



# 平成20年3月期 中間決算説明会資料

平成19年12月3日（大阪）

平成19年12月4日（東京）

**石原薬品株式会社**

（大証二部 4462）

# 目次

## ➤ 営業品目区分の変更

## ➤ 中間決算の概要

平成19年9月中間期実績及び概要

営業品目別売上高比較

営業の状況

平成20年3月期の業績予想

通期の見通し

中長期経営計画について

営業品目別売上高推移

経営の基本方針、目標とする経営指標等

## 《参考資料》

・製品紹介

・新聞掲載記事

・キャッシュ・フローと設備投資額の推移

・総資産・純資産・自己資本当期純利益率の推移

・EPS（1株当たり当期純利益）BPS（1株当たり純資産）

## ➤ 中間決算の詳細

貸借対照表の概要

損益計算書の概要

製品・商品別売上高比率・売上総利益率・輸出比率推移

キャッシュフロー計算書の概要

研究開発人員と研究開発費

## ➤ 新技術、新製品開発の状況

技術開発、製品開発の進捗

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいりますが、本資料記載の業績見通しのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願い致します。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願い致します。

## 営業品目区分の変更

平成20年3月期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）より、営業品目区分の一部を以下のとおり変更し、以降の事業区分別の各種対比に係る数値については、前中間会計期間及び前事業年度の実績を当中間会計期間の区分に基づき組み替えて記載しております。

旧		新	
区 分	主 要 品 目	区 分	主 要 品 目
金 属 表 面 処 理 剤	電子部品用外装めっき液	金属表面処理剤及び機器等	電子部品用外装めっき液
	溶接用処理剤等		化成処理液自動管理装置及び試薬等
電 子 材 料 及 び 機 器	機能材料加工品	電 子 材 料	機能材料加工品
	化成処理液自動管理装置及び試薬等		ニッケル超微粉
	ニッケル超微粉		
自 動 車 用 化 学 製 品	自動車用化学製品	自 動 車 用 化 学 製 品 等	自動車用化学製品
			溶接用処理剤等
工 業 薬 品	工業薬品	工 業 薬 品	工業薬品

### 《 理 由 》

- (1) 溶接用処理剤等：対応業界は建機、造船、自動車等で、営業形態は自動車用品と同様にルート販売が中心、自動車用品販売部門が取り扱い、損益管理も行っている現状に合わせるため。
- (2) 化成処理液自動管理装置及び試薬：対応業界は電子関連分野で、液晶等のフラットパネル、プリント基板の生産工程向けや機能めっき向け等で、対応業界、技術開発分野の共通性等から金属表面処理剤で管理する方がより適切であるため。

# 中間決算の概要

代表取締役社長 竹森 莞爾

## 平成19年9月中間期実績及び概要

単位：百万円

	平成17年9月中間期		平成18年9月中間期		平成19年9月中間期		期初計画 (中間期)	期初計画 との差異
	金額	伸率	金額	伸率	金額	伸率	金額	差額
売上高	7,629	-7.3%	7,415	-2.8%	8,140	9.8%	7,600	540
営業利益	820	-12.3%	975	19.0%	773	-20.7%	880	-107
経常利益	843	-9.6%	996	18.1%	797	-19.9%	880	-83
中間純利益	518	-8.4%	602	16.2%	495	-17.7%	530	-35
1株当り中間純利益	69.88		81.19		66.82			

(注) 1株当り中間純利益は円単位、その他は百万円単位、百万円未満切り捨て

### 《概要》

- (1) 製品売上高は低調、商品売上高は好調に推移。  
販売品目構成が変化、製品比率43.4%へ低下し、売上総利益率低下。
- (2) 原材料コストのアップ。
- (3) 販管費は、研究開発費中心に増加。  
工具器具備品等の設備取得時期の見直し管理可能費の節減の実施。

## 営業品目別売上高比較

単位：百万円

	平成18年9月中間期		平成19年9月中間期		差異	期初計画 (中間期)	期初計画 (中間期) との差異	今回予想 (年間)	期初計画 (年間)
製品 金属表面处理剤及び機器等	2,864	38.6%	2,643	32.5%	-221	2,920	-277	5,750	6,040
電子材料	280	3.8%	219	2.7%	-61	290	-71	460	580
電子関連分野 計	3,144	42.4%	2,862	35.2%	-282	3,210	-348	6,210	6,620
自動車用化学製品等	592	8.0%	595	7.3%	3	590	5	1,180	1,200
工業薬品	81	1.1%	72	0.9%	-9	80	-8	150	150
製品合計	3,817	51.5%	3,529	43.4%	-288	3,880	-351	7,540	7,970
商品 金属表面处理剤及び機器等	263	3.6%	344	4.2%	81	270	74	610	570
電子材料	1,005	13.5%	1,701	20.9%	696	1,130	571	3,300	2,380
電子関連分野 計	1,268	17.1%	2,045	25.1%	777	1,400	645	3,910	2,950
自動車用化学製品等	214	2.9%	213	2.6%	-1	210	3	420	430
工業薬品	2,116	28.5%	2,353	28.9%	237	2,110	243	4,630	4,250
商品合計	3,598	48.5%	4,611	56.6%	1,013	3,720	891	8,960	7,630
合計	7,415	100.0%	8,140	100.0%	725	7,600	540	16,500	15,600

## 営業の状況

➤ **電子関連分野** …… 売上高 49.06億円 (前年同期 44.12億円 11.2%増) 売上構成比 60.3%

(1) **金属表面処理剤及び機器** …… 売上高 29.87億円 (前年同期 31.27億円 4.5%減)

電子部品外装めっき液 (IC・チップ部品・コネクター等)

半導体関連を中心に前期後半より需要の伸びが鈍化。TAB・COF及びバンブ向けめっき液は薄型テレビ、パソコンなどの最終製品需要の好調もあり、需要は回復基調。

化成処理液自動管理装置及び試薬

対応するプリント基板業界では高密度、微細化に向けた設備投資が活発化。  
また、フラットパネルディスプレイ業界では、薄型テレビ用途の増産対応で設備投資が活発化し化成処理液自動管理装置の引き合いが活発化。

(2) **電子材料** …… 売上高 19.19億円 (前年同期 12.85億円 49.4%増)

ニッケル超微粉

需要先のセラミックコンデンサーの生産が大幅に伸びたことに伴い、ニッケル超微粉の需要も伸長。

機能材料加工品

半導体製造装置用の部品需要は比較的堅調に推移。しかし、液晶製造装置、その他業界向けは低調に推移。

➤ **自動車用品分野** …… 売上高 8.08億円 (前年同期 8.06億円 0.3%増) 売上構成比 9.9%

自動車用品業界の市場規模縮小が続く中、業務用自動車ケミカル品を中心に営業活動を展開。  
一方、溶接業界は対応する造船、産業機器、設備機械などが堅調に推移。溶接関連商材の需要も伸び販売は堅調に推移。

➤ **工業薬品分野** …… 売上高 24.25億円 (前年同期 21.97億円 10.4%増) 売上構成比 29.8%

鉄鋼向け薬剤は製鉄所のフル生産体制を受け使用量が増加。環境・公共事業体関連向け薬剤は、産廃臭気対策等の環境関連薬剤が増加し販売は好調に推移。

## 平成20年3月期の業績予想（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

単位：百万円

	平成18年3月期 （実績）		平成19年3月期 （実績）		平成20年3月期 （当期予想）		平成20年3月期 （期初計画）	
	金額	伸率	金額	伸率	金額	伸率	金額	伸率
売上高	15,008	-2.7%	15,118	0.7%	16,500	9.1%	15,600	3.2%
営業利益	1,804	14.4%	1,831	1.5%	1,730	-5.6%	1,930	5.4%
経常利益	1,850	17.8%	1,885	1.9%	1,780	-5.6%	1,930	2.4%
当期純利益	1,111	14.6%	1,150	3.5%	1,080	-6.1%	1,180	2.6%
1株当り当期純利益	145.09		155.00		145.56		159.03	
1株当り配当額	36		36		36		36	

（注）1株当り当期純利益及び1株当り配当額は円単位、その他は百万円単位、百万円未満切り捨て

尚、予想数値は注意事項ですので、お取り扱いには注意下さい。

## 通期の見通し

### ➤電子関連分野

世界的に薄型テレビ、携帯電話、パソコン等のセット製品が市場を牽引し、電子部品デバイスの需要も拡大するものと見込まれる。

#### (1) 金属表面処理剤（電子部品用外装めっき液）

ラインの補充分の売上を確保し、技術サポート力をベースに新規ユーザーの獲得、TAB・COF対応めっき液、フリップチップ実装の接続電極であるバンプ形成に対応しためっき液の拡販に注力

#### (2) 化成処理液自動管理装置及び試薬

プリント基板業界、フラットパネルディスプレイ業界では生産の伸びに伴い設備投資が活発化しており、着実な営業展開により装置の受注を獲得  
技術対応可能な新規分野の調査、機器の導入促進をユーザーに働きかける

#### (3) ニッケル超微粉

セラミックコンデンサの需要の伸びが見られ、ニッケル超微粉の需要先のセラミックコンデンサ生産能力増強計画もあり、ニッケル超微粉の需要は伸びるものと見込まれる

#### (4) 機能材料加工品

短納期生産を特徴として拡販に取り組む

### ➤自動車用品分野

業務用自動車ケミカルを中心に新製品の導入、新規カーメーカー向けの獲得、カーメーカーの海外展開に合わせ自動車ケミカル品の海外展開をはかり、売上拡大をはかる。

### ➤工業薬品分野

現行ユーザー、メーカーとの関係強化をはかるとともに新規商材開発の推進、新規市場での展開をはかる。

## 中長期経営計画について（平成19年度～平成21年度予想）

### 《 基本的な取り組み方針 》

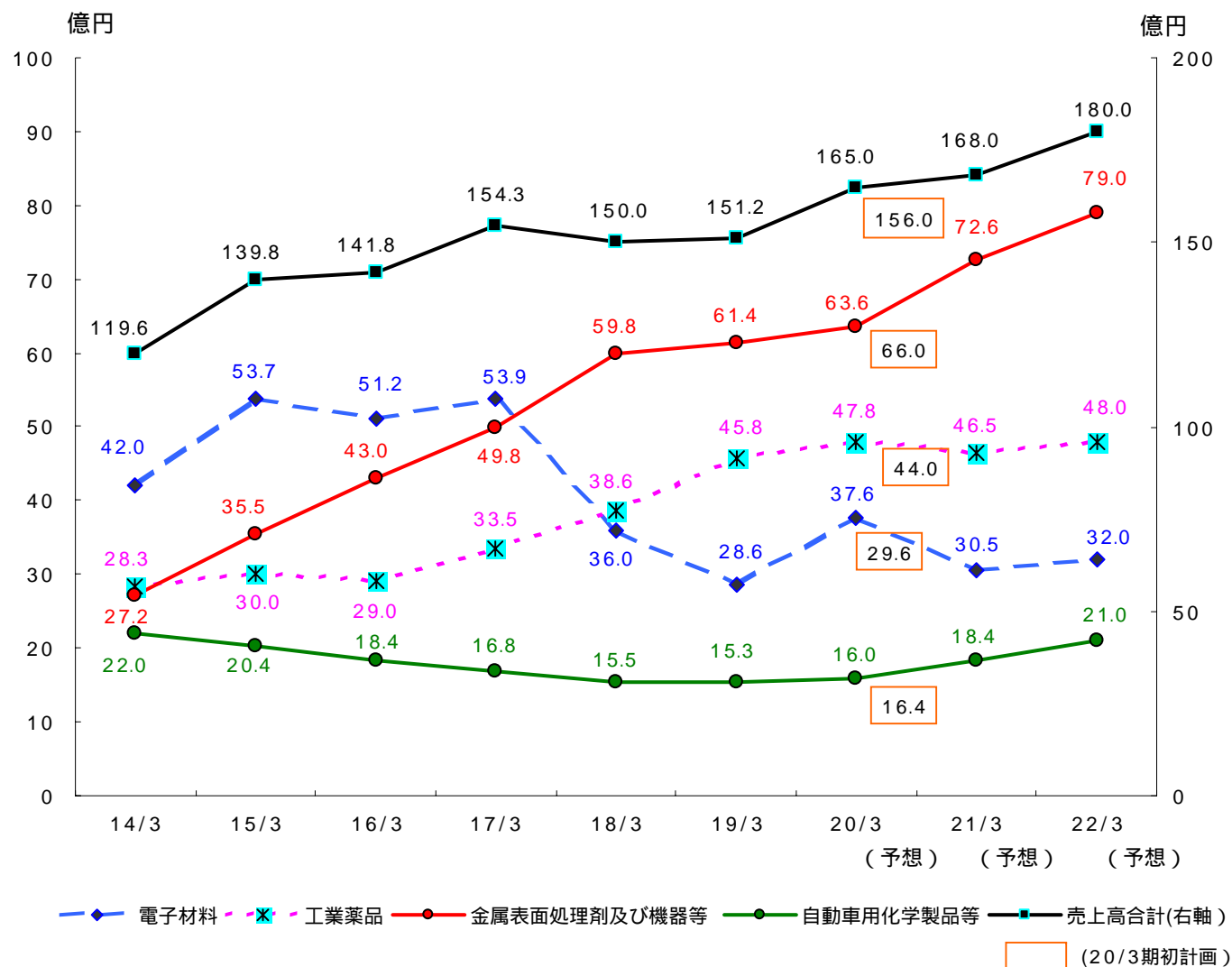
- (1) 新製品開発、新技術開発のため研究開発投資を積極的におこなう。
- (2) 基礎となる3つの分野（電子関連分野・自動車用品分野・工業薬品分野）と4つの事業（電子関連分野における金属表面処理剤及び機器等・電子材料自動車用化学製品等・工業薬品）をバランスよく展開し、各々の事業の収益力を高め、その総体として会社の業績の伸長をはかる。
- (3) 自社製品比率を高め、売上総利益の拡大をはかり収益力の高い会社を目指す。
- (4) 電子材料関連分野を重点開発分野と位置づけ第5の事業を育成する。

### 《 目標 》

	平成18年3月期	平成19年3月期	平成20年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期
	実績 (構成比)	実績 (構成比)	期初計画 (構成比)	予想 (構成比)	予想 (構成比)	予想 (構成比)
製品売上高	73.2億円 (48.8%)	74.5億円 (49.2%)	80.0億円 (51.3%)	75.4億円 (45.7%)	88.0億円 (52.4%)	95.0億円 (52.8%)
商品売上高	76.8億円 (51.2%)	76.7億円 (50.8%)	76.0億円 (48.7%)	89.6億円 (54.3%)	80.0億円 (47.6%)	85.0億円 (47.2%)
計	150.0億円	151.2億円	156.0億円	165.0億円	168.0億円	180.0億円 以上
経常利益	18.5億円	18.9億円	19.3億円	17.8億円	23.0億円	26.0億円 以上
当期純利益	11.1億円	11.5億円	11.8億円	10.8億円	14.0億円	16.0億円 以上
売上高経常利益率	12.3%	12.5%	12.4%	10.8%	13.7%	14.4%

尚、予想数値は注意事項ですので、お取り扱いには注意下さい。

# 営業品目別売上高推移



尚、予想数値は注意事項ですので、お取り扱いには注意下さい。

## 経営の基本方針、目標とする経営指標等

### 《 経営の基本方針 》

当社は自己開発・商品開発・市場開発の「3つの開発」を企業理念とし、ニッチ市場といわれる事業分野で高い市場占有率を維持し、基幹となる3つの分野で事業をバランスよく展開し、各々の収益力を高め、総体として会社の業績の伸長をはかる。

このような事業活動を通じて常に新しいニーズの創造・発掘に取り組み、会社の発展を通じて、株主・取引先・従業員など関係各位の信頼と期待に応え、社会に貢献していくこと。

⇒ 企業価値及び株主共同の利益の確保・向上に努める

### 《 目標とする経営指標 》

- (1) 自社製品の売上拡大により、製品売上高の構成比50%以上を維持し  
売上総利益の拡大をはかる
- (2) 売上高経常利益率10%以上を維持する
- (3) ROE（自己資本当期純利益率）・EPS（1株当たり当期純利益）の向上

## 《 利益配分の基本方針 》

- (1) 業績に裏付けられた安定的、継続的な配当を基本とする。
- (2) 研究開発や新事業、新技術開発など将来の企業価値を高めるための投資に優先して充当する。

## 《 配当の推移 》

平成15年3月期	平成16年3月期	平成17年3月期	平成18年3月期	平成19年3月期	平成20年3月期 (予想)
15.00円	22.50円	34.00円	36.00円	36.00円	36.00円

# 中間決算の詳細

常務取締役 浅野 真司

## 貸借対照表の概要

単位：百万円

### 主な資産・負債の増減内容

- (1) 現預金 …… 37百万円減
- (2) 売上債権 …… 398百万円増  
     売掛金 …… 376百万円増  
     受取手形 …… 22百万円増
- (3) 棚卸資産 …… 164百万円減  
     商品 …… 106百万円減  
     製品 …… 45百万円減  
     原材料他 …… 13百万円減
- (4) 有形固定資産 …… 74百万円減  
     設備投資額 …… 41百万円  
     減価償却費 …… 116百万円
- (5) 投資その他資産 …… 151百万円増  
     投資有価証券 …… 72百万円増  
     繰延税金資産他 …… 79百万円増
- (6) 仕入債務 …… 261百万円増  
     買掛金 …… 135百万円増  
     支払手形 …… 125百万円増
- (7) その他流動負債 …… 259百万円減  
     未払金 …… 141百万円減  
     未払法人税等 …… 70百万円減

	平成19年3月期	当中間期	増減金額	前中間期
(資産の部)				
流動資産	8,139	8,299	160	7,985
現預金	2,815	2,778	37	2,669
売上債権	4,309	4,707	398	4,267
棚卸資産	866	701	164	903
その他	148	112	36	146
固定資産	9,020	9,103	82	8,793
有形固定資産	2,892	2,818	74	2,925
無形固定資産	6	11	5	6
投資その他の資産	6,121	6,273	151	5,861
資産合計	17,159	17,403	243	16,778
(負債の部)				
流動負債	3,959	3,958	1	4,031
仕入債務	2,949	3,210	261	2,872
1年以内返済予定 長期借入金	88	84	4	135
その他	921	662	259	1,024
固定負債	340	331	9	326
長期借入金	32	33	1	35
その他	308	298	10	290
負債合計	4,299	4,289	10	4,358
(純資産の部)				
純資産合計	12,860	13,113	253	12,420
負債・純資産合計	17,159	17,403	243	16,778

# 損益計算書の概要

単位：百万円

## (1) 売上高・・・725百万円増

製品売上・・・287百万円減

商品売上・・・1,012百万円増

## (2) 売上総利益・・・142百万円減

### 売上総利益率改善

32.5%    31.0%    27.9%  
 (前中間期)    (H19.3期)    (当中間期)

### 売上構成の変化

製商品割合	製品	商品
当中間期	43.4%	56.6%
H19.3期	49.2%	50.8%
前中間期	51.5%	48.5%

### 売上総利益率

	製品	商品
当中間期	55.0%	7.1%
H19.3期	55.6%	7.2%
前中間期	56.0%	7.6%

## (3) 販売費及び一般管理費

・・・59百万円増

研究開発経費・・・34百万円

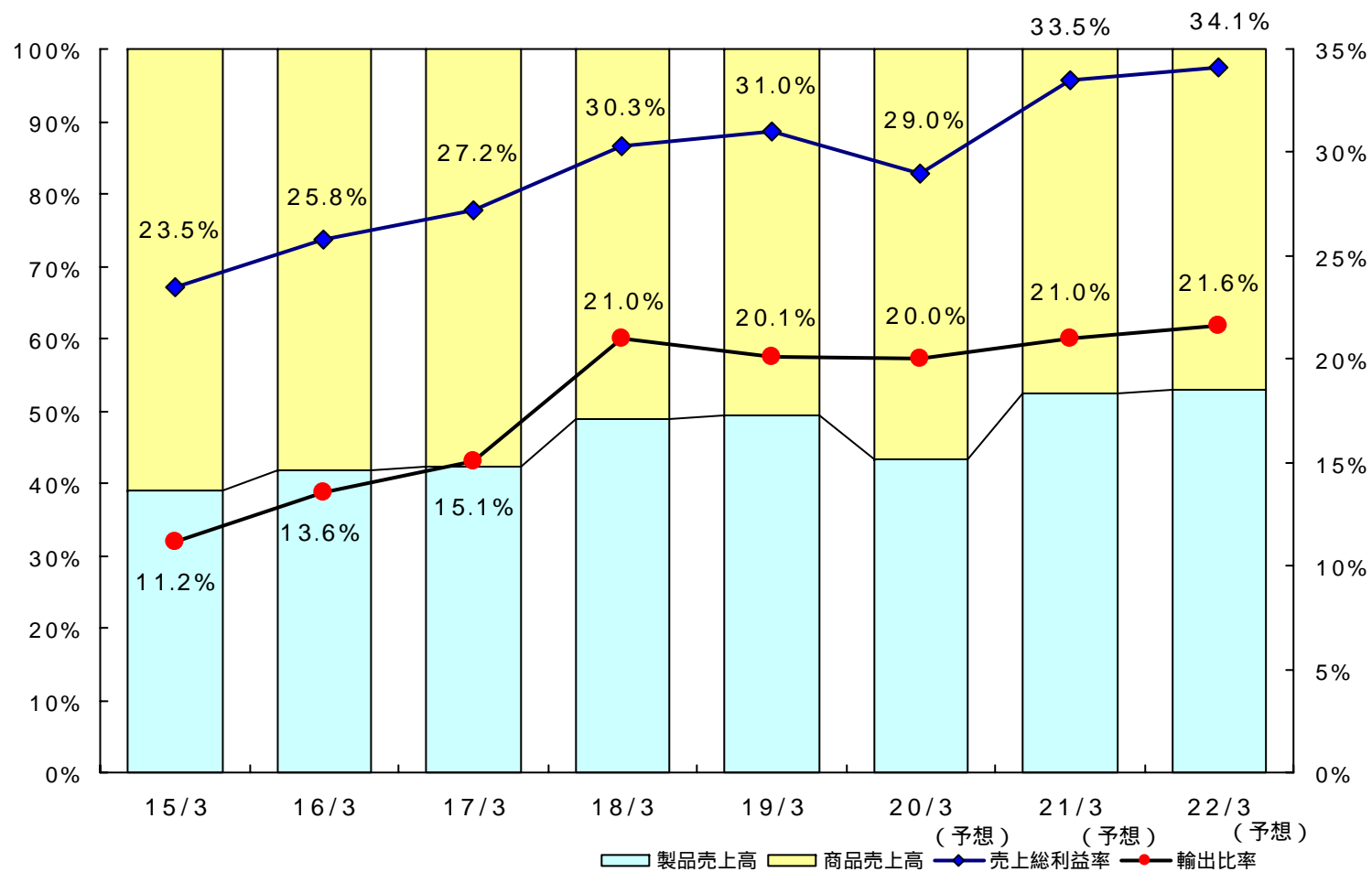
減価償却費・・・3百万円

リース料・・・10百万円

その他・・・12百万円

	前中間期		当中間期		増減金額	平成19年3月期	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
売上高	7,415	100%	8,140	100%	725	15,118	100%
売上原価	5,005	67.5%	5,873	72.1%	867	10,426	69.0%
売上総利益	2,409	32.5%	2,267	27.9%	142	4,692	31.0%
販売費及び 一般管理費	1,433	19.3%	1,493	18.4%	59	2,860	18.9%
営業利益	975	13.2%	773	9.5%	202	1,831	12.1%
営業外利益	45	0.6%	50	0.6%	6	93	0.6%
営業外費用	24	0.4%	26	0.3%	3	40	0.2%
経常利益	996	13.4%	797	9.8%	198	1,885	12.5%
特別利益	1	0.0%	3	0.0%	2	1	0.0%
特別損失	13	0.2%	0	0.0%	12	18	0.1%
税引前 中間純利益	984	13.2%	800	9.8%	183	1,868	12.4%
法人税等	381	5.1%	304	3.7%	78	718	4.8%
中間純利益	602	8.1%	495	6.1%	107	1,150	7.6%

## 製品・商品別売上高比率・売上総利益率・輸出比率推移



尚、予想数値は注意事項ですので、お取り扱いには注意下さい。

## キャッシュフロー計算書の概要

現金及び現金同等物の減少 …… 31百万円 (中間期残高 2,775百万円)

(1) 営業活動によるキャッシュフロー …… 435百万円

利益 800百万円、減価償却費 118百万円、売上債権増加 398百万円

仕入債務増加 261百万円、法人税等支払 387百万円等

(2) 投資活動によるキャッシュフロー …… 323百万円

投資有価証券取得による支出 507百万円、売却、償還による収入 254百万円

有形固定資産の取得による支出 70百万円等

(3) 財務活動によるキャッシュフロー …… 137百万円

配当金の支払 134百万円等

単位：百万円

	前中間期	当中間期	平成19年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	416	435	1,171
投資活動によるキャッシュ・フロー	600	323	1,021
財務活動によるキャッシュ・フロー	187	137	370
現金及び現金同等物の増減額	366	31	226
現金及び現金同等物の期首残高	3,032	2,806	3,032
現金及び現金同等物の期末残高	2,666	2,775	2,806

## 研究開発人員と研究開発費

《参考》

	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3 (今期予想)	19/9
従 業 員	152	161	180	182	183	182
研究開発人員	37	43	53	55	62	60
割 合	概ね1/4が研究開発要員					1/3へ

単位：百万円

研究開発費	495	559	639	680	820	356
研究開発用設備取得 (リース資産も含む)	30	50	54	104	100	23

## 新技術・新製品開発の状況

- 技術開発、製品開発の進捗

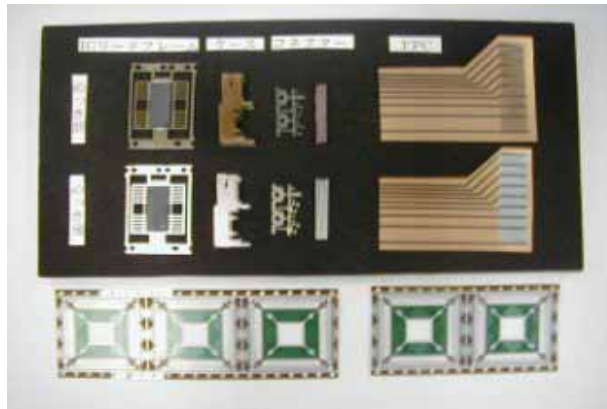
代表取締役専務 時澤 元一

# 《 参 考 资 料 》

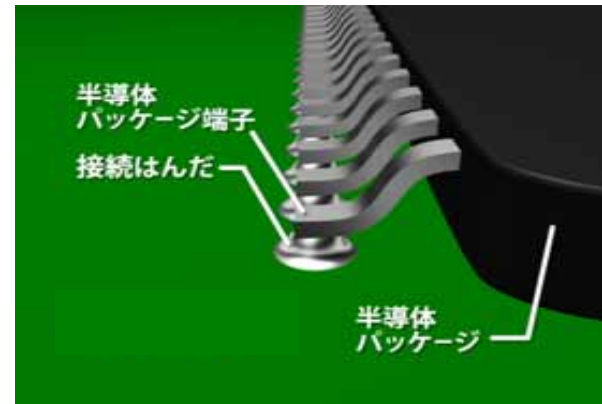
# 製品紹介

## 金属表面处理剂

リードフレーム・TAB



半導体リードフレームとめっき



めっきした電子部品を実装したプリント基板



電子部品



IC



コンデンサ



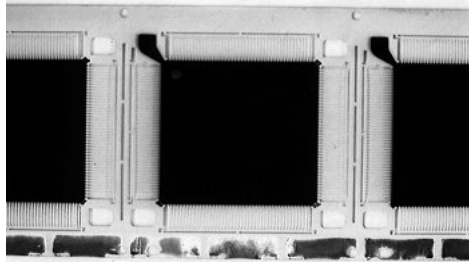
コネクター



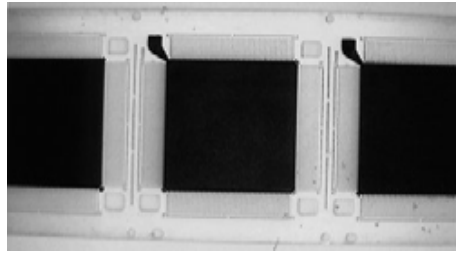
抵抗



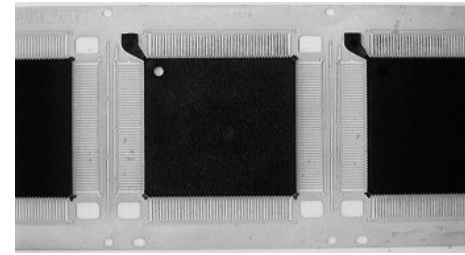
### めっき部品 1 (Lead Frame)



(a) Sn-3Bi



(b) Sn-1Cu

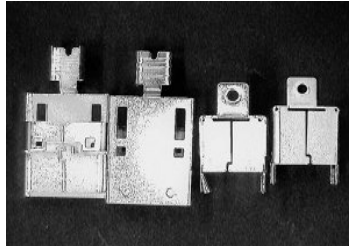


(c) Sn-3.5Ag

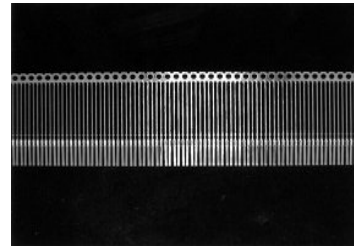
### めっき部品 2 (Connector)



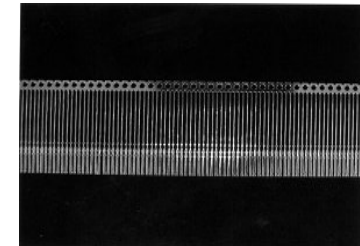
(a) Sn-1Cu Barrel Plating



(b) Sn-2Bi Barrel Plating

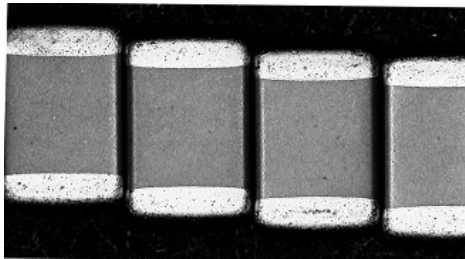


(c) Sn-1Cu R to R plating

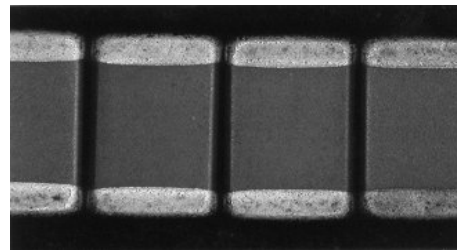


(d) Sn-2Bi R to R Plating

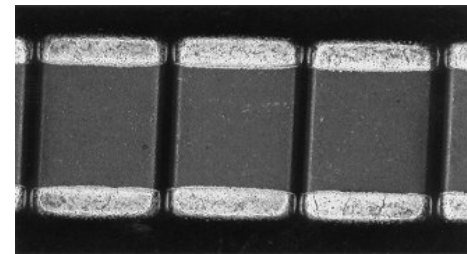
### めっき部品 3 (Chip)



(a) Sn

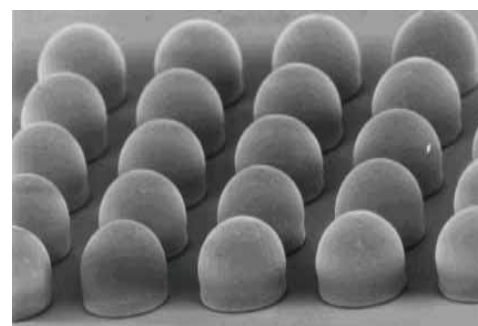
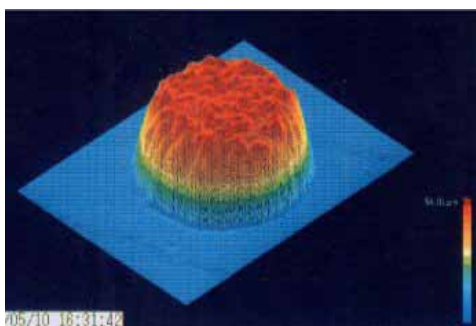
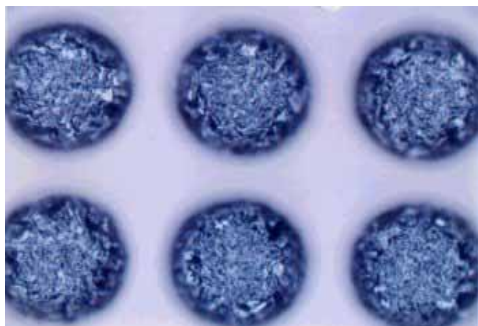


(b) Sn-2Bi



(c) Sn-1Cu

## めっき部品 4 (Bump)



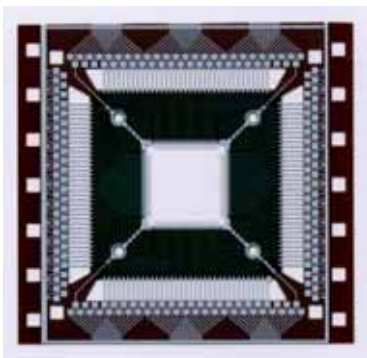
As Plated

After Reflow

バンプとは・・・数十ミクロン程度の金やハンダの小さなボールを電極部分にくっつけコブのような突起電極にしたもので、半導体素子と基板上の配線電極を接合する際に外部接続端子として実装する場合に用いる技術

## めっき部品 5 (TAB・COF)

T A B



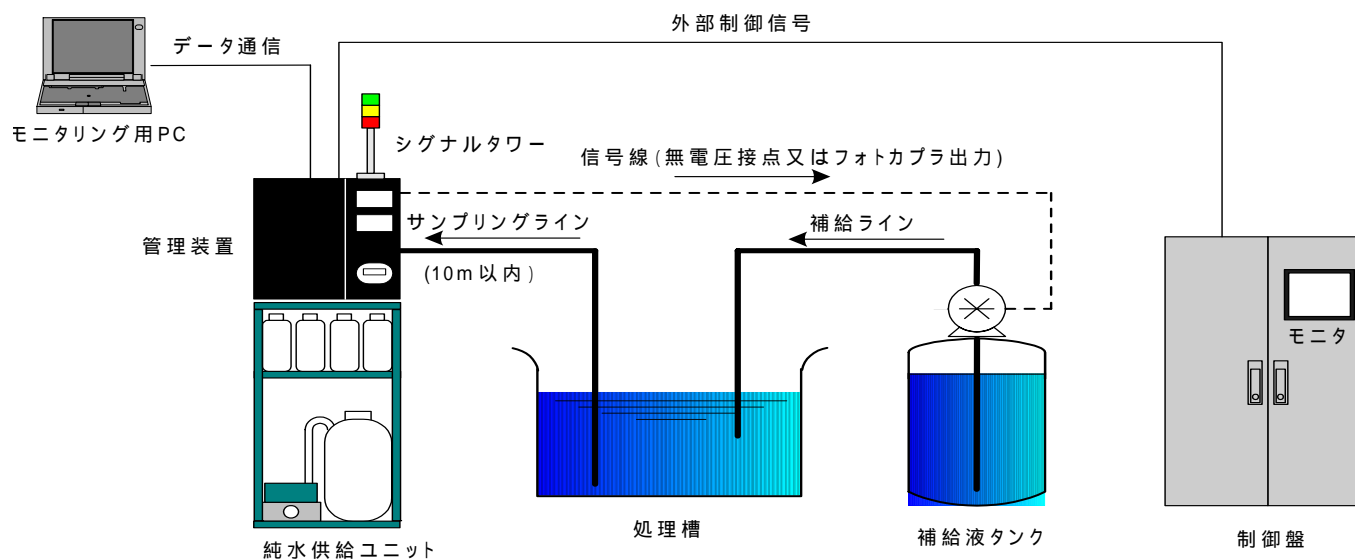
TABとは・・・テープ状のフレキシブル材料に半導体チップを搭載した回路基板で、プラズマディスプレイドライバーや液晶ドライバーに多用

C O F

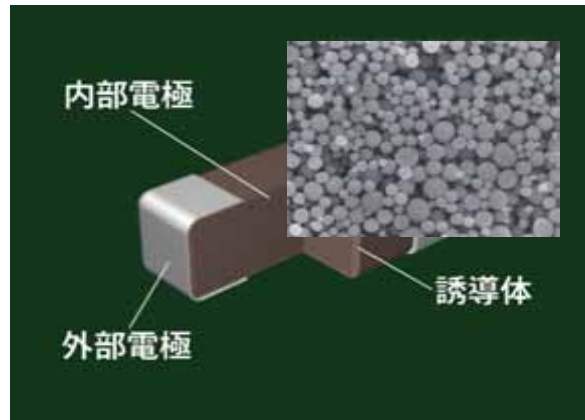


COFとは・・・液晶テレビなどのフラットパネルディスプレイのドライバー搭載用途等に使用されるファインピッチ化に対応した実装技術

# 化成処理液自動管理装



## ニッケル超微粉



## 自動車用化学製品



## 機能材料加工品

### CFRP加工品



### セラミック加工品



# 害虫寄せ付けない鋼板

JFE鋼板、アース製薬、石原薬品  
飲食店や商業施設に提案



害虫寄せ付けない鋼板のメリット  
 1. 衛生面：飲食店や商業施設に使用することで、害虫の発生を抑制し、衛生環境を向上させる。
 2. 経済性：害虫駆除のための薬剤や労力を削減できる。
 3. 耐久性：鋼板の表面処理により、錆や汚れの付着を防止し、長寿命を期待できる。

アース製薬と石原薬品が提供する「防虫機能付き鋼板」は、独自の技術により、害虫の付着や繁殖を効果的に抑制します。これは、飲食店や商業施設の衛生管理に大きな貢献をします。また、鋼板の表面が滑らかになるため、清掃が容易になり、コスト削減にもつながります。

## 表面処理鋼板 内装用に販売

# 防虫機能付き開発

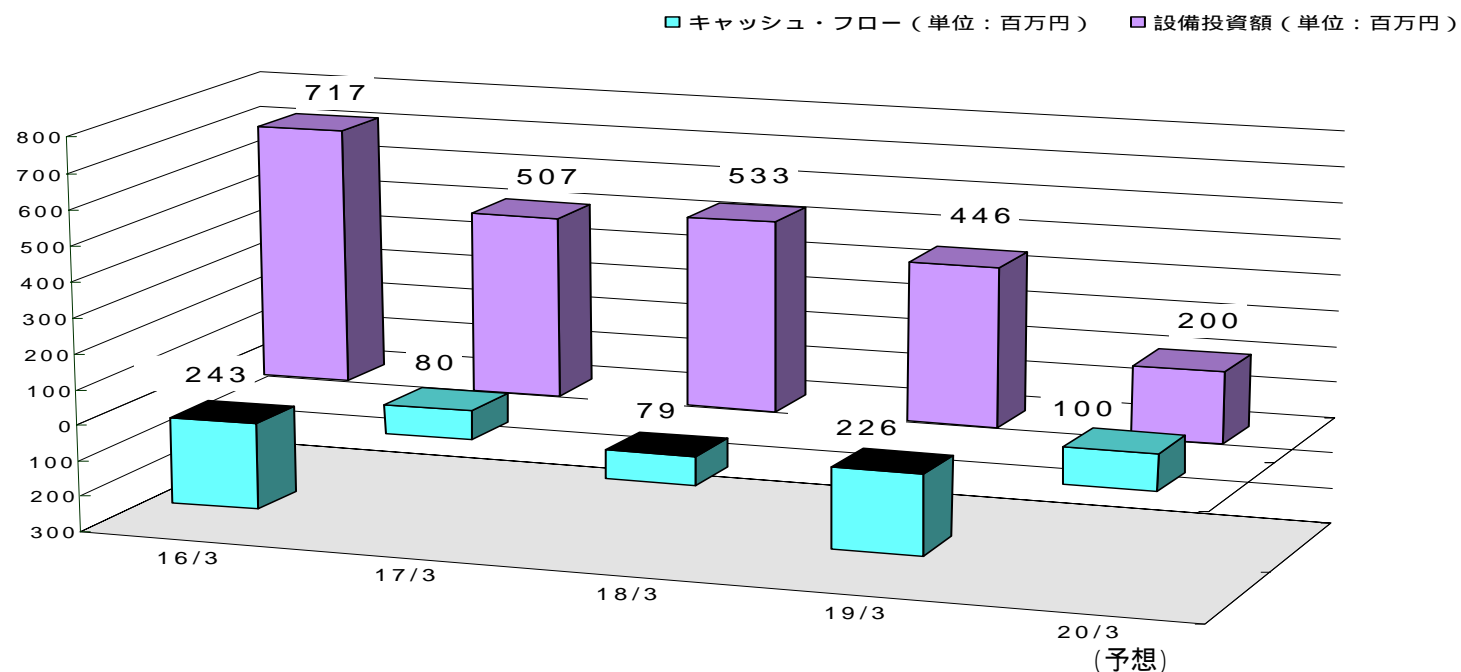
JFE鋼板の防虫機能付き鋼板は、衛生面と経済性を両立させる革新的な製品です。この鋼板は、飲食店や商業施設のキッチン、カウンター、壁面などに最適です。害虫の発生を抑制することで、お客様の健康と安全を守ります。また、長期的なコスト削減を実現します。

お問い合わせ先：JFE鋼板株式会社  
 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
 TEL: 03-3233-1111

# キャッシュ・フローと設備投資額の推移

単位:百万円

		16/3	17/3	18/3	19/3	20/3 (予想)
【Cash Flow】	キャッシュ・フロー	243	80	79	226	100
【Capital Investment】	設備投資額	717	507	533	446	200
【Depreciation Expenses】	減価償却費	159	196	213	239	250

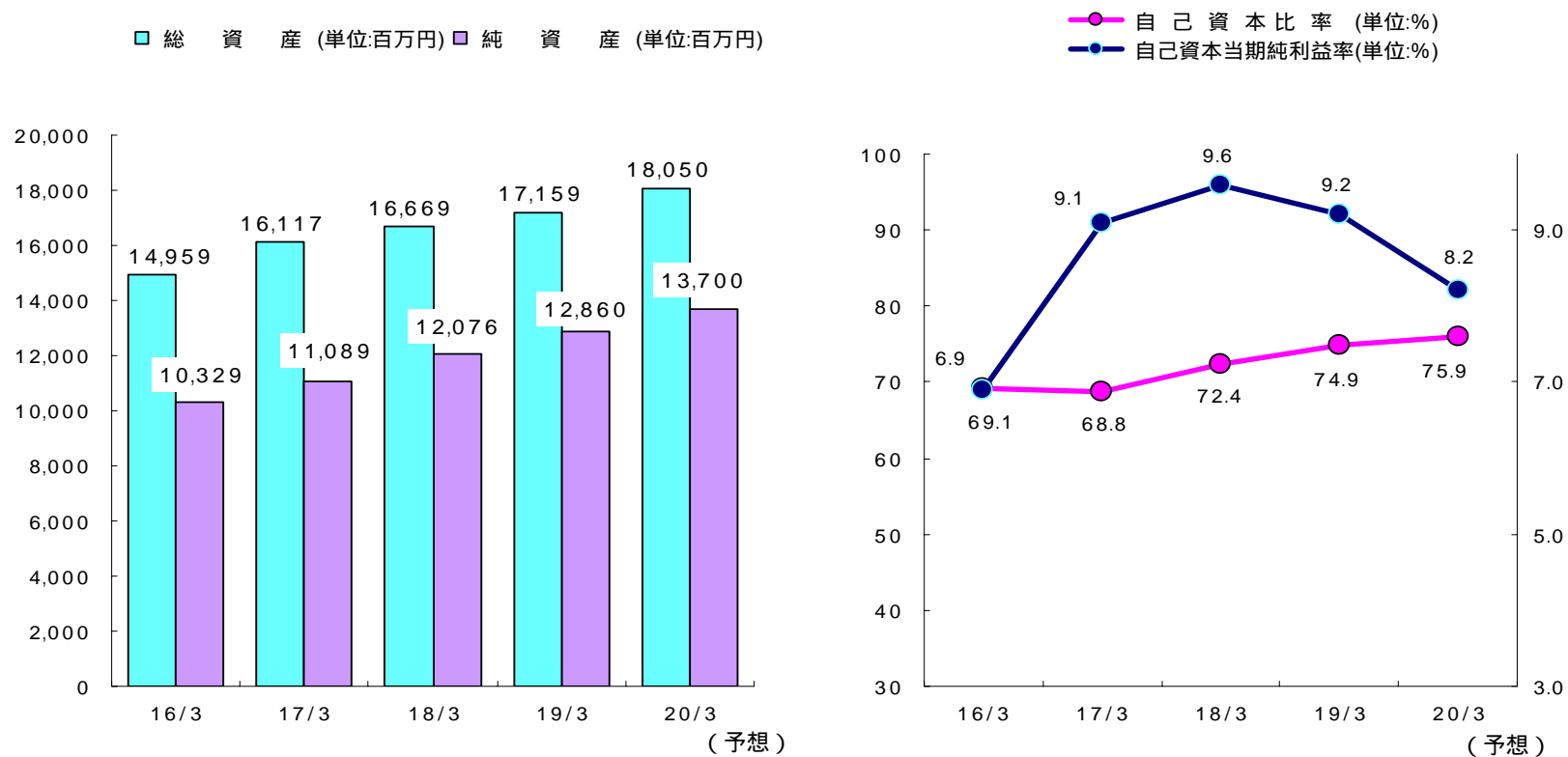


尚、予想数値は注意事項ですので、お取り扱いには注意下さい。

# 総資産・純資産・自己資本当期純利益率の推移

単位:百万円、%

		16/3	17/3	18/3	19/3	20/3 (予想)
【Total Assets】	総 資 産 (単位:百万円)	14,959	16,117	16,669	17,159	18,050
【Shareholders Equity】	純 資 産 (単位:百万円)	10,329	11,089	12,076	12,860	13,700
【ROE】	自己資本当期純利益率(単位:%)	6.9	9.1	9.6	9.2	8.2
【% of Shareholders Equity】	自 己 資 本 比 率 (単位:%)	69.1	68.8	72.4	74.9	75.9



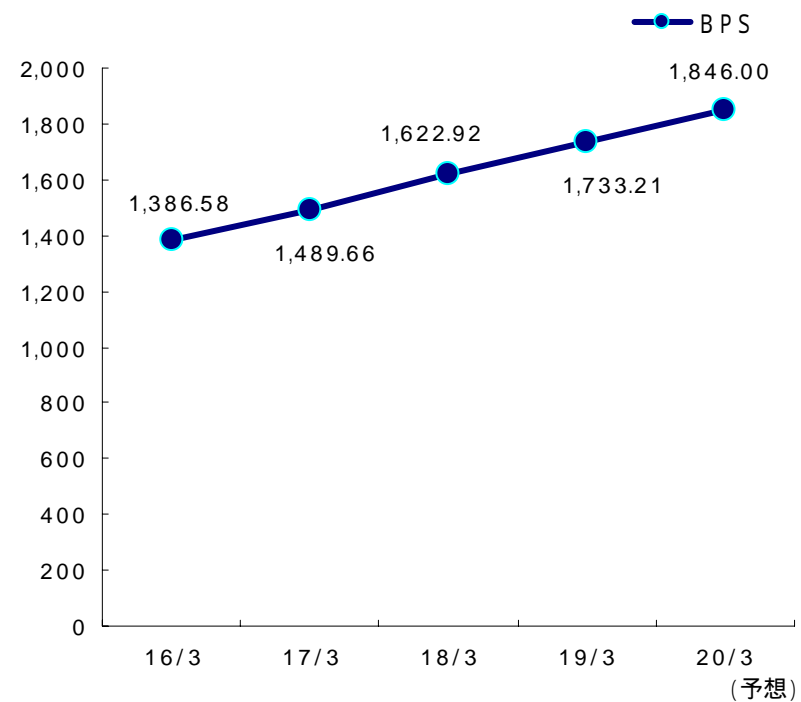
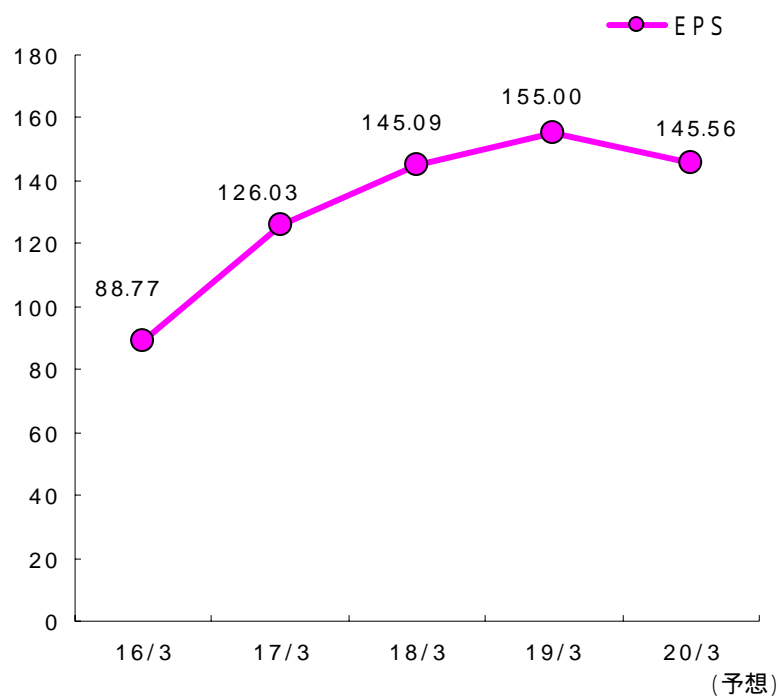
尚、予想数値は要注意事項ですので、お取り扱いには注意下さい。

# E P S ・ B P S

## 1株当たり当期純利益・1株当たり純資産

単位:円

		16/3	17/3	18/3	19/3	20/3 (予想)
E P S	1株当たり当期純利益	88.77	126.03	145.09	155.00	145.56
B P S	1株当たり純資産	1,386.58	1,489.66	1,622.92	1,733.21	1,846.00



尚、予想数値は注意事項ですので、お取り扱いには注意下さい。

ありがとうございました

平成19年12月

石原薬品株式会社

(大証二部 4462)

URL: <http://www.unicon.co.jp>